

神戈陵を渡る風

令和3年度 川辺高校 校長通信 第048号

令和4年3月25日(金)発行

いよいよ令和三年度の終業式の日になりました。こうやって、「神戈陵を渡る風」の発行も第48号で今年度は終わりとなります。皆さん、今まで読んでくれてありがとう。これまで、いろいろな学校での出来事や校長としての思いを綴ってきました。一年間を振り返る最終号では、皆さんの明るい前途に送る言葉を集めました。

終業式式辞

『置かれた場所で咲きなさい』

この言葉は、学校法人ノートルダム清心学園理事長だった渡辺和子シスターが書かれ、ベストセラーとなったエッセイ集のタイトルです。元は、英語の詩なのでここに紹介します。

“Bloom where God has planted you.”

「神様が植えて下さった場所で咲きなさい」

Please bloom where God has placed you.
Rather than give up, make the best of your life and bloom like a flower.
To bloom is to live happily.
Let your joy make others happy.
Your smile is contagious.
When you are happy and show it by your smile
Others will know it and are happy too.
God has planted you in a special place.
If you know it share it with others, your personality will shine.
It is that “shine” which we call “Bloom”
When I bloom in the place where God has placed me
My life becomes a beautiful flower in the garden of life.
Bloom where God has planted you
(Reinhold Niebuhr)
(ラインホルド・ニーバー)

皆さんも、日本語訳に挑戦してみたいはかが？

さて、渡辺和子先生は2016年12月30日に89歳でお亡くなりになりました。父親は台湾軍司令官や陸軍教育總監を務めた渡辺錠太郎でした。1936年2月26日、陸軍将校の一部らが起こした軍事クーデター「2・26事件」で、父親が反乱軍の将校らに殺害される場面を9歳のときに自宅で目撃したという衝撃的な体験があります。戦後1951年に聖心女子大学を卒業し、1962年には、アメリカ・ボストンカレッジ大学院を終了し、博士号を取得したのちノートルダム清心女子大学家政学部の教授となりました。翌63年には、若くして学長に就任し、マザー・テレサの84年来日時には、通訳を務めるなど親交もありました。

先生のお言葉のなかに、

①置かれた場所で咲くという気持ちを忘れず、自分が今できることを一生懸命励みましょう。

②ほほえむことを忘れた人たちに、ほほえみを惜しまずに与えましょう。ほほえみには、私たちの心の中にある目には見えない愛を、目に見える形にして相手に伝えるコミュニケーションの役割があるといえます。ほほえみには、マジックのような力があります。与えられた人を豊かにしながら、与える人は何も失わない。

— それがほほえみなのです。

③「今」をたいせつにして生きないと、花は開かない。「今」をいい加減に生きると、次の瞬間もいい加減なものとなり、いい加減な一生しか送れないことになってしまうのかも知れない。「今」という瞬間を意識して生きたいと思う。「今の心」と書くと「念」という字になると気づいた時、「念ずれば花開く」という言葉の意味が、わかるように思ったものがあります。

があります。

私たちは、「ほほえみ」を持って「今」を生きることだと気づかされました。

渡辺和子先生の名言集

置かれたところこそが
今のあなたの居場所なのです

咲けない時は
根を下へ下へと
降ろしましょう

結婚しても
就職しても
子育てをしても
「こんなはずじゃなかった」
と思うことが
次から次に出てきます

そんな時にも
その状況の中で
「咲く」努力を
してほしいのです

どうしても
咲けない時もあります
雨風が強い時
日照り続きで咲けない日
そんな時には
無理に咲かなくてもいい

その代わりに
根を下へ下へと降ろして
根を張るのです

次に咲く花が
より大きく
美しいものとなるために



校内に咲いた3月の花



高校入試合格発表と進路体験発表会

校長通信「神戈陵を渡る風」について



卒業式

今年度『神戈陵を渡る風』を第048号まで発行を重ねてきました。読んでくれた皆さんに感謝しています。校長通信では、生徒諸君の学校の様子や校長の思いを綴った発信を心掛けてきました。回を重ね、伝えたい思いと乖離していないのか？ この内容でよかったのか？ という思いに駆られることもありました。継続することは、何かを伝えられ、また、何かを得られるものだとして信じての行動でした。来年度も校長通信『神戈陵を渡る風』の継続を決意しています。よろしくお願いいたします。

